令和8年度 第2回労働者安全衛生対策部会資料
【資料２】

福島第一原子力発電所　救急医療室の概要について

2026年10月28日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

目的外使用・複製・開示禁止　東京電力ホールディングス株式会社

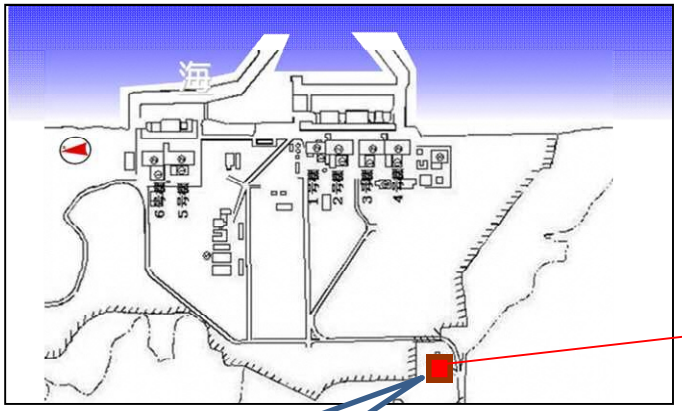
1．救急医療室（ＥＲ）の概要

運用開始	2013年6月30日（現在の場所へ移設） （2011年7月～2013年6月までは5/6号機サービス建屋で運用）
役　割	○負傷、熱中症、心筋梗塞等の救急医療を必要とする患者に対し初期診察を実施 ○重症患者の場合には、必要に応じて現場救護を行うとともに、後方医療機関への搬送の要否を判断 ○その他の軽微な傷病も含めて、受診しに来られた患者に対する初期診療の提供
対象者	○主として福島第一原子力発電所で作業されるすべての方 ○ご視察者様など1F来訪者様も受診可能
医療体制	○夜間・休日を問わず２４時間受け入れ体制を維持 医師1名、看護師1名、救急救命士2名、事務員2名(夜間休日は1名)
主な機材・設備等	心電計、超音波診断装置、レントゲン、診療エリア、除染室、人工呼吸器、自動心臓マッサージ器、除細動器、酸素ボンベ、外傷縫合セット、救急カート、ベッドサイドモニタ、点滴器材、各種薬剤、救急車
可能な診断・治療等	○救急病院の救急室と同等もしくはそれ以上の処置が可能 骨折等の診断、捻挫・骨折等の固定、軽微な切創の縫合、熱中症等の初期対応、心臓疾患の診断、心肺停止時の蘇生

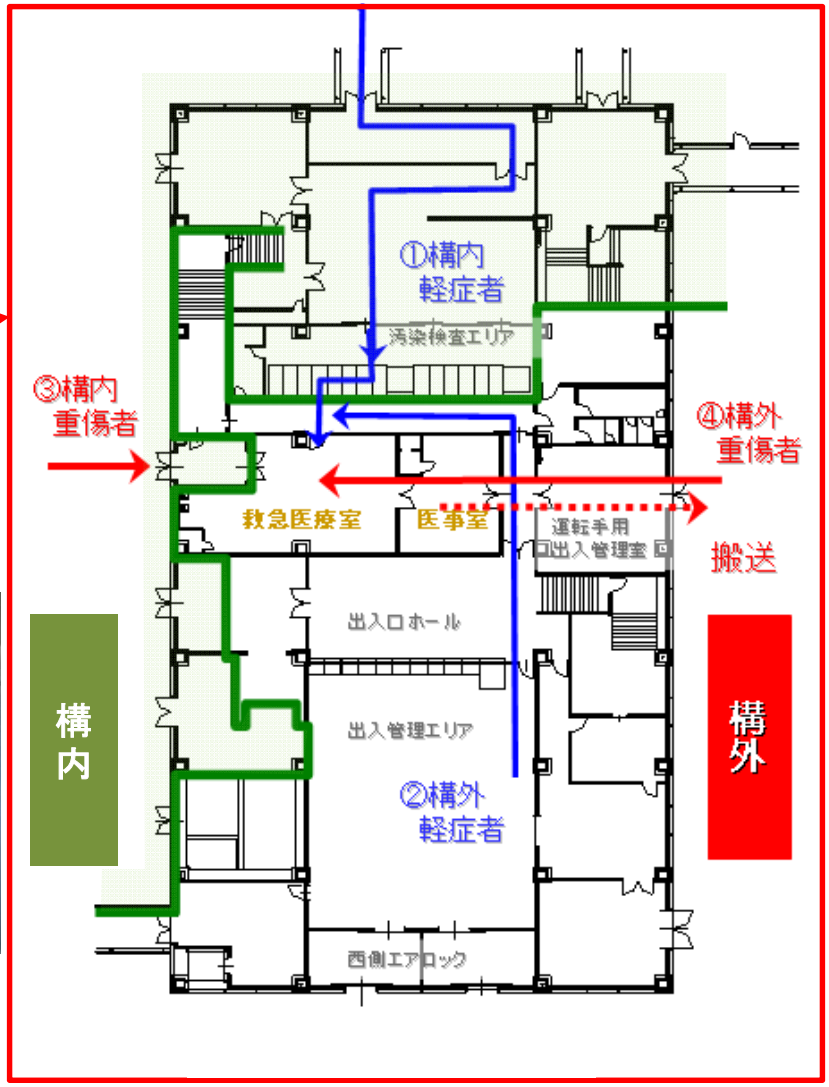
目的外使用・複製・開示禁止　東京電力ホールディングス株式会社

2．救急医療室の配置

【構内配置図】



【入退域管理棟】





室内全景



診察エリア

目的外使用・複製・開示禁止　東京電力ホールディングス株式会社

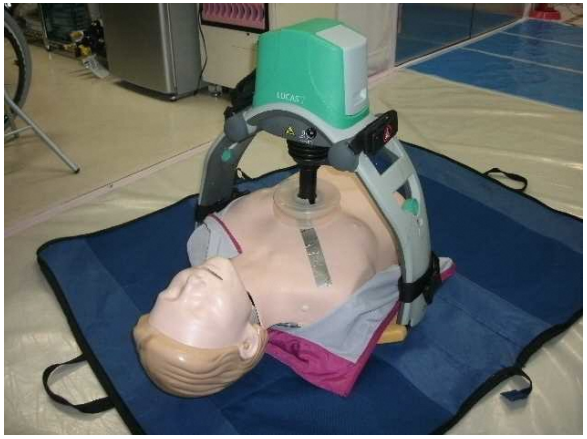
3．救急医療室の装備等



X線撮影装置



超音波診断装置



自動心臓マッサージ器



当社所有の救急車
（構内2台、構外2台）



心電計



敷地内ヘリポート



体内除染剤

目的外使用・複製・開示禁止　東京電力ホールディングス株式会社

4．医療体制に係わる人員配置

体　制	医　師	救急救命士	看護師	事務員
医　師　1名 救命士　2名 看護師　1名 事務員　2名 （土日、夜間は1名）	当社社員1名 ＋ 1FサイトERネットワーク登録医師	当社と契約した専任の救命士5名 （月曜日～木曜日） ＋ 日本救護救急財団から派遣23名 （金曜日～日曜日）	当社社員3名	当社社員7名 （月曜日～金曜日） ＋ 日本救護救急財団から派遣9名 （財団救命士23名の中から所定の研修を受けた者） （土曜日～日曜日）
シフト	・当社社員医師は48時間又は72時間交代 ・ネットワーク登録医師は24時間又は48時間交代	・月～木は専任救命士2名が48時間交代 ・金～日は財団2名が24時間又は48時間交代	3名でシフト	・月～金は当社社員7名でシフト ・土,日は財団1名（※） ※土日は事務員としての当社社員は不在（2024年7月～）

夜間休日を問わず２４時間体制で医師、看護師、救急救命士、事務員（当社社員）が救急医療室に勤務し、日中はさらに数名の事務員が加わり傷病者発生に備えている。

目的外使用・複製・開示禁止　東京電力ホールディングス株式会社

5．至近の救急医療室受診件数

TEPCO

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度（上半期）	計
熱中症 脱水症	15件	16件	28件	28件	87件
外　傷	22件	30件	22件	14件	88件
疾　病	27件	15件	47件	20件	109件
計	64件	61件	97件	62件	284件

注）上記件数はER受診件数であり災害件数とは異なります。

- 全体的に近年、受診件数は増加傾向にあるが、軽症の方も多く、ER積極使用の呼びかけ効果が出ているものと評価している。
- 熱中症・脱水症の発生については、発生ピークが過ぎたため、発生件数は昨年度とほぼ同等と予想。暑さが増していることもあり、受診件数は増加しているが、軽症のうちに受診される方が増え、重症化は防げている。
- 外傷についてはほぼ横ばい。
- 疾病については病気の種類や症状も軽重様々であり、これといった原因や相関がある訳ではない。軽い頭痛やめまい、鼻出血といった軽症の受診も多くなってきており、ERを積極的に利用してもらえている。

目的外使用・複製・開示禁止　東京電力ホールディングス株式会社

6-1. トピックス①

◎【医療スタッフの確保について】

（医師）

・現在、1F-ERネットワーク登録医師数は８３名。既登録医師からの紹介などにより医師を追加登録しており、年間のシフト枠以上の登録者数を確保している。

（看護師）

・看護師は当社の嘱託社員で３名のうち２名は嘱託雇用契約の上限年齢に近づいているが、当人の健康状態に問題はなく、継続して働く意欲もあることから、上限年齢を引き上げることとしており、当面の間は人材が確保できている。

（救急救命士）

・専任救命士は県内の消防署OBであり、元々４名でシフトを組んでいたが、引退を考え始めた方から代わりとなる消防署OBを紹介していただき、現在は５名体制。来年度から４名体制に戻るがこうした紹介により人材を確保している。

◎【構内救急搬送の迅速化について】

・核セキュリティ部門と連携し、予め救急車乗務員の名簿を取り交わすなどして車両ゲート通過時の人定確認を省略し、数分の短縮を実現。
・救急車の運転は事務員が行うが、毎月定期的に救急車運転訓練を行っており、構内の道路状況の観察や運転技術の向上に努めている。

◎【緊急時対策本部との情報共有について】

・これまで、ERで得た患者情報、傷病の情報などは都度FAXを利用し共有していたが、近年、電子ホワイトボードを採用し、情報をリアルタイムで共有することができており、情報共有の迅速化も実現している。

目的外使用・複製・開示禁止　東京電力ホールディングス株式会社

6-2. トピックス②

◎【アイスバスの運用開始について】

〇運用開始：2026年6月～

〇採用品名

アイスバスP-PEC（ピーペック）（特許第7473733号）

〇選定理由

- 少人数、短時間、容量も大きすぎずER内で設置可能であること。
- 未使用時にはER内で収納できること。
- 適正な価格であること。

アイスバス本体



（使用例）



使い方



目的外使用・複製・開示禁止　東京電力ホールディングス株式会社

6-3. トピックス③

◎【AED増設について】増設台数（35台⇒63台）：2026年9月～



目的外使用・複製・開示禁止　東京電力ホールディングス株式会社